

日常生活圏域ごとの状況	第1圏域	第2圏域	第3圏域	第4圏域	第5圏域
	高齢者あんしん相談センター むさしの	高齢者あんしん相談センター ふじみ苑	高齢者あんしん相談センター えぶりわん鶴瀬Nisi	高齢者あんしん相談センター みずほ苑	高齢者あんしん相談センター ひだまりの庭むさしの
圏域の概要 (地域の特性)	ふじみ野駅東側から荒川土手までの面積の広い圏域。田畑が広がる南畑地区、駅周辺の高層マンションが多いふじみ野東地区、昔からの地元の家が多い勝瀬地区、住宅が密集し坂が多い渡戸地区、羽沢地区など、様々な地域特性をもつ。大小の河川に囲まれ、水害の危険性が高い地域でもある。	鶴瀬駅東側から市役所・図書館・体育館周辺までの地域。駅近くの鶴瀬東地区、大型商業施設（ららぽーと富士見）に隣接し水害の危険性が高い山室地区、坂が多く戸建て住宅の多い羽沢地区、住宅密集地と昔ながらのアパートや中層マンションまた昔からの地元の家も混在している鶴馬地区・諏訪地区がある。大型商業施設があることにより、鶴瀬駅東口から市役所周辺にかけて人や自転車・車の動きが多くなっている。	ふじみ野駅西口から国道254号線の手先(大井方面)まで続くふじみ野西、勝瀬西と、鶴瀬駅西口の鶴瀬西地区、住宅が密集する上沢地区と地域の特徴が大きく異なる圏域である。高齢化率が高い町会と低い町会が併存しているが、圏域全体でみると、25.6%とであり富士見市内で高齢化率が一番高くなっている。	鶴瀬駅西口の区画整理が進められている鶴瀬地区から、狭い道が多く住宅が密集している関沢地区、みずほ台駅に近く中層マンションが多い西みずほ台地区、三芳町との境になる針ヶ谷地区までの圏域。駅周辺や三芳町との境はスーパー等の資源が多く高齢化率も低めだが、昔からの住宅街やエレベーターがない古い団地が多い地域は高齢化率が高くなっている。	みずほ台駅近辺の中層マンションが多い東みずほ台地区と、農地が住宅地へと開発され若い世代の人口が増加している水子地区、住宅が密集する貝塚地区、生活実態が志木市に近い水谷東地区、榎町地区と、地域性がそれぞれ異なっており、高齢者人口が最も多い圏域である。
人口（令和5年3月31日現在）	23,586人	22,709人	18,883人	22,637人	25,274人
高齢者数（高齢化率）	5,396人（22.9%）	5,522人（24.3%）	4,840人（25.6%）	5,394人（23.8%）	6,096人（24.1%）
後期高齢者数（後期高齢化率）	3,023人（12.8%）	3,164人（13.9%）	2,850人（15.1%）	3,112人（13.7%）	3,445人（13.6%）
施設など (令和5年3月31日現在)	①介護老人福祉施設（特養） 3カ所 ②介護老人保健施設 2カ所 ③グループホーム 0カ所 ④有料老人ホーム 1カ所 ⑤小規模多機能 0カ所 ⑥通所（地域密着型含む） 5カ所 ⑦認知症デイ 0カ所 ⑧通所リハ 2カ所 ⑨定期巡回 0カ所 ⑩居宅介護支援事業所 4カ所 ⑪公民館・交流センター等 5カ所	①介護老人福祉施設（特養） 2カ所 ②介護老人保健施設 0カ所 ③グループホーム 1カ所 ④有料老人ホーム 2カ所 ⑤小規模多機能 1カ所 ⑥通所（地域密着型含む） 8カ所 ⑦認知症デイ 0カ所 ⑧通所リハ 1カ所 ⑨定期巡回 0カ所 ⑩居宅介護支援事業所 4カ所 ⑪公民館・交流センター等 2カ所	①介護老人福祉施設（特養） 1カ所 ②介護老人保健施設 1カ所 ③グループホーム 2カ所 ④有料老人ホーム 1カ所 ⑤小規模多機能 1カ所 ⑥通所（地域密着型含む） 1カ所 ⑦認知症デイ 1カ所 ⑧通所リハ 1カ所 ⑨定期巡回 0カ所 ⑩居宅介護支援事業所 2カ所 ⑪公民館・交流センター等 1カ所	①介護老人福祉施設（特養） 1カ所 ②介護老人保健施設 0カ所 ③グループホーム 1カ所 ④有料老人ホーム 1カ所 ⑤小規模多機能 1カ所 ⑥通所（地域密着型含む） 4カ所 ⑦認知症デイ 1カ所 ⑧通所リハ 0カ所 ⑨定期巡回 0カ所 ⑩居宅介護支援事業所 8カ所 ⑪公民館・交流センター等 3カ所	①介護老人福祉施設（特養） 1カ所 ②介護老人保健施設 0カ所 ③グループホーム 0カ所 ④有料老人ホーム 3カ所 ⑤小規模多機能 1カ所 ⑥通所（地域密着型含む） 2カ所 ⑦認知症デイ 1カ所 ⑧通所リハ 0カ所 ⑨定期巡回 0カ所 ⑩居宅介護支援事業所 4カ所 ⑪公民館・交流センター等 2カ所
課題	徐々に活動の場は回復しているが、まだまだ人が集まる場所への出足は慎重な様子がかええる。介護・フレイル予防や顔の見える関係づくりの観点から、地域や福祉、医療、行政などの社会資源が協働し、地域での自主的・継続的な活動につながるよう、より積極的かつ粘り強い啓発を行っていく必要がある。	相談内容は複数の課題を抱えたケースが増えている。高齢者のことだけでなく、同居している若い家族のことや金銭的なことなど、複雑化しており各関係機関と協働で支援していく必要がある。また、隣近所からの支援に支えられて生活を送っているケースも多くみられる。地域の状況を把握し対応していくために、地域へ足を運び民生委員をはじめとする地域との繋がりを深めていく必要があると感じている。	予定していた活動計画は、コロナ感染症予防の会場ルールに従い、予定通り開催できた。地域ケア会議等は地域ネットワークの構築に繋げ、町会や民生委員とのさらなる連携を図るため定期的に話し合いを設けた。相談内容も多岐にわたり、複合的な問題を抱えたケースが増えている。介護保険サービスに偏った支援にならないように自立を促しエンパワーメントを引き出して、ともに達成感を共感していきます。	コロナ感染症の5類移行後、地域の活動は再開してきており、民生委員からの相談、地域の方からの相談が増えている。地域包括支援センターも実態把握を積極的に行い、アウトリーチ支援を積極的に行っていく必要があると感じている。また、相談内容は、多岐にわたり、高齢者、障害者、生活保護など各機関と連携が必要な相談が増えている。重層的体制整備事業との連携、ケアラー支援にも力を入れて行く必要があると感じている。	感染症の対応が変わり、徐々に地域の活動も活発になってきている。人とのかわりが増えてくると対応が必要なケースの相談も増えてきている。家族がおらず親族との関係も希薄なケースを、身元保証や成年後見につながないと介護サービスや医療の対応につなげないことが増えてきたのを感じる。関係機関においても地域包括支援センターの認識が低く、立場の説明に苦慮することも多い。